

三重縣下
伊勢國飯高郡大足村
川口常文

上

3044



114
A 4109



二年十月七日三重縣下伊勢國飯高郡大足村布衣川口常文
誠恐誠惶頓首再拜謹テ書ヲ

天正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

參議大隈君閣下ニ上ル常文 恭シク惟ミルニ好義ノ心ハ人
ノ固有スル所而シテ之ヲ鼓舞作興シ以テ風教ヲ維持スル
ハ蓋シ在上君子ノ當務ナリ是ヲ以テ

王政復古以來忠臣烈士ノ墓碑ヲ修シ祠宇ヲ新ニシ其祭
祀ヲ舉行セラル者數フルニ勝フヘカラズ然レモ忠臣烈士ノ數
多ナル或ハ不幸ニシテ未タ旌表ノ典ニ與カラス祠宇頽圯シ墳
墓蕪没セントスル者往々之レ無シトセス是ニ於テカ在野ノ

徒志ヲ合シテ其修繕ヲ謀ル者アレハ 官輒チ之ヲ許シ且
金圓ヲ下賜シテ其舉ヲ助ケ其志ヲ達セシメラルハ實ニ
昭代ノ盛事ト謂フヘキナリ常文竊ニ元弘延元ノ世ヲ顧ルニ
天步艱難ノ際ニ當リ結城上野介藤原宗廣朝臣ハ夙ニ大
義ヲ明カシ名分ヲ正フシ鞠躬盡瘁勤 王ノ志終始不貳其
忠勇義烈楠公ノ比ニシテ其功績ハ既ニ正史ニ昭々タリ茲ニ我
伊勢國安濃郡藤方村ニ結城神社アリ是レ實ニ朝臣神靈
ヲ祭リ其傍ノ墳墓ハ即チ朝臣ノ遺骸ヲ葬ル所ナリ今マ其
墓碑頽圯シ祠宇モ亦將ニ荒廢セントス常文嘗テ之ヲ吊シ慨
然トシテ以為ク朝臣ノ忠烈ニシテ如是ナル其レ何ノ故ソ鳴

公世花園上

呼今ニシテ之ヲ修繕セサレハ則チ朝臣ノ神靈ニ對シ敬禮ヲ
失スルノミナラス人ノ好義心ヲシテ萎茶振ハサラシメ遂ニ
聖世ノ德輝ヲ減スルニ至ント然レモ其祠宇タルマ舊津藩主
故從四位藤堂高允氏ノ構造ニ係レリ故ニ先ツ書ヲ今ニ華族
從三位藤堂高猷氏ニ寄セテ之ヲ謀ル高猷氏大ニ之レヲ
嘉ミシ金五百圓ヲ出シ常文ヲシテ談事ヲ句當セシム常文又
書ヲ三重縣令岩村定高氏ニ呈シテ其賛成ヲ乞フ定高氏
モ亦大ニ之ヲ賞シ為メニ盡カスルノ言アリ是ニ於テ常文同志
五十餘名ト相謀リ其祠宇ヲ修繕シ且朝臣ノ子弟及ヒ一族
殉難ノ靈ヲモ配祀シ毎歲祭祀ノ典ヲ舉シテ上請シ既ニ

官許ヲ得タリ常文又惟フ天下ノ善ハ衆ト共ニスルニ如カス
朝臣ノ忠烈ヲ欽慕スル者豈啻僅々五十餘名而已ナラシヤト
乃チ別ニ報道書ヲ作り廣ク之ヲ海内ニ募リ衆力ヲ結合
シ以テ祠宇ヲ壮大宏敞ニシ永ク朝臣ノ忠烈ヲ天下ニ表彰
シ後世臣民ヲシテ殉難ノ榮ヲ知り忠義ノ節ヲ立テ以テ
國家ノ用ニ供セシメント欲ス常文ノ此報道ヲナスマ志士ノ
之ニ應スル者忽テ數千名ハ多キニ至レリ然レモ猶未タ
在上君子ノ之ヲ贊助セラルアル無シ是常文等ノ一大遺憾
トスル所ナリ然ルニ

聖天子我縣へ

巡幸ノ際朝臣ノ忠烈ヲ追賞セラレ

勅使ヲ諛神社ニ派シ祭梁料トシテ金幣ヲ賜ハリ加之

諛修繕ノ舉ヲ

聞食サセラレ

特旨ヲ以テ金貳百圓ヲ下賜セラレタリ嗚呼此舉ハ盛ニ
是ニ至ル者自ラ朝臣精忠ノ

天意ヲ感動スルニ出ルモノニシテ其朝臣地下ノ光荣今日ニ

至テ始テ顯ルト謂フヘシ仰願クハ 閣下上ハ

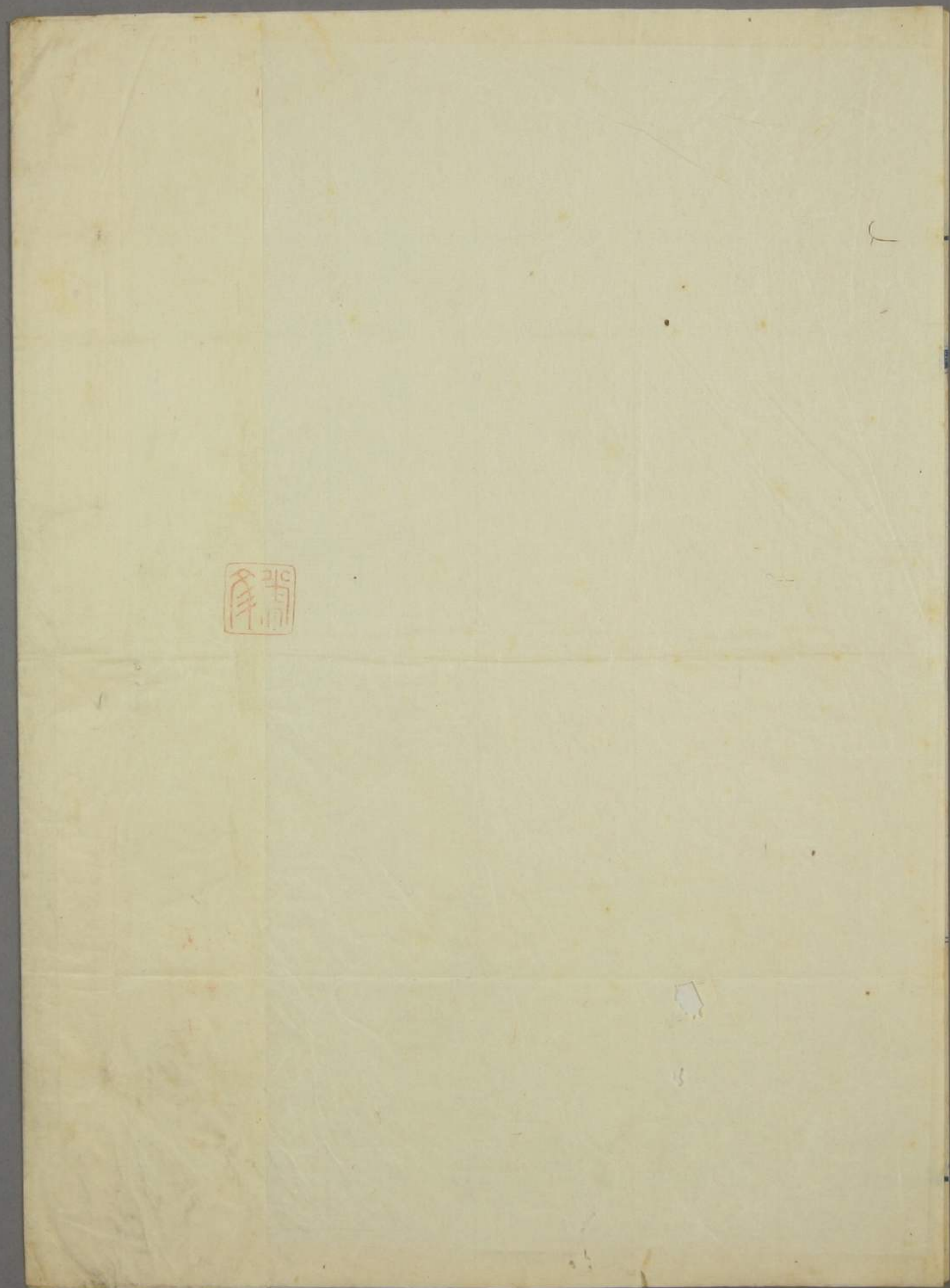
聖旨ニ體シ下ハ常文等ノ微志ヲ愜諒セラレ特別ノ

高慮ヲ以テ諛資金ノ幾分ヲ寄贈セラレンコト苟モ此

ノ如ク上

聖天子ヲ始メ奉リ賢宰相ノ率先シテ以テ此輩ヲ
賛助セラレハ朝臣ノ忠勇義烈愈々天下ニ昭著シ該社
一層ノ光輝ヲ増ス而已ナラス其人々ノ好義心ヲ鼓舞
作興シ風教ヲ無窮ニ維持セシメ豈ニ疑ヲ容ニヤ 常文
草野ノ一布衣ヲ以テ殉難忠臣ノ祠宇ヲ壮大宏敞ニ以
テ海ノ内外ニ明示セントスル其意ノ存スル所ノ如キハ

閣下ノ賢明ナル蓋シ之レヲ垂察セラレシメテ信スルナリ
尊嚴ヲ冒瀆シ戰慄ノ至ニ堪ヘス誠恐誠惶頓首再拜



7